

別記様式第1号（第5条関係）

当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会 開催結果の要旨

会議名	第1回 当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会		
日時	平成26年9月22日（月） 午後1時30分～4時10分	場所	当尾の郷会館2階 「多目的教室」
出席者	委員 ■多田 実（会長）、■石井 好二郎（副会長） ■前田 義之、□吉田 修史、■植村 海宥、■山本 憲市、 ■倉山 美幸、■井上 成美（代理出席：森田 陽子）、 ■西村 正子、■浦辺 長次、■福岡 正司、 ■沢尾 俊和（代理出席：浦 一良） ※□：欠席者		
	その他出席者		
	事務局		
議題	1. 開会 2. 委員紹介 3. 市長挨拶 4. 会長及び副会長の選出 5. 議事 (1) 報告事項 ・委員会の役割及び運営（資料1、別紙1、別紙2） (2) 協議事項 ・当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化事業の概要（資料2） 6. その他 7. 現地視察（別紙3） 8. 閉会		
審議結果要旨	1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 委員紹介 委嘱状を交付し委員名簿により委員紹介を行った。 3. 市長挨拶 委員会に先立ち河井市長から挨拶があった。 4. 会長及び副会長の選出 多田委員を会長に、石井委員を副会長に選出した。 5. 議事 (1) 報告事項 ・委員会の役割及び運営（資料1、別紙1、別紙2） 事務局より、資料1・別紙1・別紙2を基に説明し質疑応答を行った。 (2) 協議事項		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化事業の概要（資料2） 事務局より、資料2を基に説明し意見交換および質疑応答を行った。</li> </ul> <p>6. その他 次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>7. 現地視察（別紙3） 別紙3を基に、当尾地域を車窓から視察し、途中、岩船寺に立ち寄った。</p> <p>8. 閉会</p>
審議経過要旨	<p>1. 開会 審議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 委員紹介 審議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 市長挨拶 審議結果要旨のとおり。</p> <p>4. 会長及び副会長の選出 審議結果要旨のとおり。</p> <p>5. 議事            (1) 報告事項  <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会の役割及び運営（資料1、別紙1、別紙2） 審議結果要旨のとおり。</li> </ul>           (2) 協議事項  <ul style="list-style-type: none"> <li>・当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化事業の概要（資料2） 審議結果要旨のとおり。 主な意見・質疑等は次のとおり。 (○…質疑・意見、→…質疑に対する返答) ○近年トレイルランニングを楽しむ人が増えている。歩くことと走ることは共通する部分もあり、走ると移動距離が長くなるため、様々な道を見出すことにつながるのではないか。当尾地域は環境的にもすばらしい。 マナーの問題もあるが、トレイルランニングをしている方は、現在のところ、歩行者・ハイカーとすれ違う場合、待つというルールを持っている。マナーについても学べる入門的な場所としての活用も可能である。  ○観光は南部地域が中心、観光にも二面性があり、来訪者のモラルの問題がある。現在の地域での観光や現状はどうなっているのか。 →数値的には毎年観光入込客数調査を行っている。市内では年間10万人</li> </ul> </p>

を超える施設は2箇所しかなく、そのひとつが浄瑠璃寺である。また石仏の道についても、6万6千人となっており、6万人を超える箇所というの、市内でも多くないのが現状となっている。なお、今回の委員には、日常的に地域を見ておられる方もいるので、現状については、そちらからもお願いしたい。

○旅行会社からの問い合わせが多い、近年は参加者が高齢化しており、下るコースを望まれている。また木津川市に来ていただいているので、当尾プラスどこかというようなプランも提案している。

トレイルランニングのように、若い人が来てくれることは活気が生まれる。

南部地域だけでなく、北部も魅力があるものの、交通が不便であるので、走って移動することはおもしろい。

石仏コースも、昔と違い、整備が難しく危険で制限をしているところもあり、復元できればと思う。

○トレイルランニングの上級者は、自分たちで道を開拓していくこともあり、過去の道を蘇らすきっかけにもなると考える。

○モラルの問題に困っている地域もある。道端にゴミを捨てるマナーの悪い人もおり、地域がゴミばかりになるのは価値が下がっていく。また、道の草刈など、対策方法を考えないと、来る人にも申し訳ない。

○人も多くなれば、苦情も多くなる。草刈によるコース整備も様々な声を聞いている。

行政支援もあるが、十分ではなく、現実的には、個人的に整備しているケースもある。

また、人が来ると食事も重要視される。一方で、食べることでゴミやトイレの課題が出てくる。

現在、観光は南部地域中心であるが、当尾全体のブランドを立ち上げるべきではないか。

○ゴミの問題は、様々なところで課題になっているが、音楽イベントでもゴミ問題が起り、出演者が来場者に訴えたことにより、解決されたこともある。何らかの仕掛けがあれば、解決の糸口につながる。

○ウォーキングの目的のひとつに、地域の良さを知ってもらうことがある。そのためには拠点が必要であり、例えば加茂駅を拠点として、バスを使ったりしながら、様々なコースを作るのもひとつである。ただし、コースを簡単に案内できる常駐スタッフは必要であるが、案内の際、ゴミ袋を渡すことで、ゴミの問題は変化してくるはずである。

ウォーキング客が、勝手に来て歩いてくださいでは厳しい、案内サインと地図と拠点が大事である。それに、地元の産物として、おにぎりでもウォーキングをする方は喜ばれる。

○中部地域は生活の場所のイメージがある。空き家も出て来ている。当尾の活性化策としてウォーキングはいいが、定住ということにはつながらないと思う。

田舎の警戒心は強いので、地元の心の問題をクリアしていくことも必要である。何故ウォーキングなのか。

○当尾地域の活性化には、色々なことがあっていいと思うが、まず、地域が喜んでくれることが第一、課題が解決し結果が出れば事業にも参画してくれるようになる。地域が良くならないといけない。いろいろなアイデアを出して、課題と結びつけていけばいい。

→ウォーキングはわかりやすい指標のひとつであり、目的ではない。ひとつの手段である。地域に喜んでもらうことは、別の手法があればシフトしていくことで、新たな市の魅力にもつながってほしい。地元の方が楽しんでいるものでないと長くは続かない。今後も議論を重ねていきたい。

○ウォーキングは単純に歩くことであり、地元の方にとっても、健康維持につながるものである。地元の方が歩くことで、何かポイント制など、歩くことが楽しくなる仕組みがあってもいいのでは。地元の方が歩けば、結果的に整備にもつながってくる。

○イギリスで発表された誌面で、巨大な日の丸を子どもが担いでいる絵がある。高齢化社会は世界でも日本がトップであり、世界に例を見る事ができないものである。

様々な取組において、人はいきなり参加はせず、徐々に広がっていくものである。

○道の駅のような形や、当尾の郷会館の活用もしてほしい。

○今後の木津川アートでの活用等はどうか。

→木津川アートは市内を順次回っていき、魅力を再発見していただくものである。しかし、制作の場所について、作家から声を聞いたこともあるので、空いているスペースと上手くコラボできることが望ましい。

○空き家が使えるようになれば、公的施設の整備負担を抑えることもできる。

最近、工場だった場所にアトリエを構えた作家が、南部地域でおり、もっと芸術家が来てほしいということも聞く。入居できる最低限の整備を行行政がして、つなげていくという姿勢も大事である。

	<p>○空き家対策は行政が関わって、何か考えることはできないか。</p> <p>6. その他 審議結果要旨のとおり。</p> <p>7. 現地視察（別紙3） 審議結果要旨のとおり。</p> <p>8. 閉会</p>
<b>その他特記事項</b>	傍聴者2人